

愛恵だより

第 18 号

2026年5月25日 発行

発行：公益財団法人 愛恵福祉支援財団

〒114-0015 東京都北区中里 2-6-1 愛恵ビル5F

電話：03-5961-9711(代) / FAX：03-5961-9712

<https://www.aikei-fukushi.org/>

「愛恵」の題字は初代理事長 三吉 保 氏による

変化を踏まえつつ支援の多角化を目指す

当財団の助成事業は社会福祉事業（福祉施設の運営、福祉活動 ①子どもたちの健全な育成 ②地域コミュニティの活性化 ③社会的弱者に対する活動 ④被災などで見えてきた課題に対する活動 ⑤国内における国際的活動など）を行う民間の団体が必要とする設備、備品類及び事業費用に対し助成する。

2026年度の事業計画

時代の変化はさまざまな様相を呈しますが、私たちは人々の生活を脅かす動きに対して、社会的弱者を守り、少しでも豊かな生活が保証されるように活動を続けています。この活動は新しい年度も変わることはありませんが、経済的能力を基盤にした力のバランスは益々明確になり、持てる者と持たざる者の格差は広がるばかりです。2026年度もこの潮流にどのように向き合っていくかを考えながら歩んでまいります。

時代は常に新しい課題を生み出してきました。それらの課題の中で当財団が担えるものは何かを考えながら、社会福祉の担い手を育てている教育現場への働きかけを行っていますので、引き続き良き成果が上がるように働きかけてまいります。特に、アジア諸国の社会福祉制度の整備はこれからますます進んでいくと思われます

ので、その担い手の育成を支援する活動を本格化します。

また、地域社会に根差した社会福祉のニーズに対して比較的小規模で活動している団体への支援は引き続き行いますが、加えて先駆的、開拓的な社会福祉事業を試みようとしている事業への支援、国内外の自然災害への緊急支援等要請にこたえて検討してまいります。

これらの事業はこれまでの通り、当法人が直接主催するものと、共催・後援で実施するものに分けて計画を立て、実施してまいります。

当財団の前身である愛恵学園創立からまもなく100年を迎えますので、愛恵学園が私たちに何を残してくれたのかを明確にする必要があると考えて、引き続き100年の歴史を検証してまいります。

2026年度 支援事業

1. 財団主催公募事業

① 一般助成

比較的小規模な社会福祉法人、NPO 法人、非営利任意団体等に公募によって1件あたり30万円を限度



自走式草刈機 型式 GCK-503
(2025 年度の一般助成から)



子ども用パソコン・カラーキーボード仕様
(2025 年度の一般助成から)

に什器、備品等の調達に資金助成する。

② ペイン奨学金

大学院課程の学生に1年間100万円を限度として年間100万円を限度に授業料相当額及び10万円の研究費を給付する。給付期間は2年。2025年度給付(2人)。

③ 愛恵奨学金 2026 年度新設

社会福祉を学ぶ者のうち学業優秀であるアジアの発展途上国に在籍する大学(院)生に対して奨学金を給付し社会福祉分野における有為な人材を育成支援する。

④ 社会福祉啓発事業 (愛恵エッセイ賞募集)

「豊かな福祉社会を創るために」をテーマとしてエッセイを公募する。国内在住の外国籍の人たちからの参加部門も設けている。

⑤ 出版助成 2025 年度新設

先駆的な発想に基づく社会福祉の研究や革新的な社会福祉の研究教育についての出版物の発行に対して助成する。

社会福祉の研究・教育推進事業の出版助成を日本キリスト教社会福祉学会の協力のもと、以下のように決定し、2025年度第1回出版助成贈呈式を行った。

1. 今堀美樹氏

大阪体育大学教育学部

対象作品：竹内愛二とキリスト教社会主義運動—ケースワーク論の「科学」と「価値」を問い直す—

2. 庵原美香氏

花園大学社会福祉学部社会福祉学科

対象作品：被災者のスピリチュアルペインに配慮したソーシャルワーク実践モデルとは何か—東日本大震災による住家全壊被災者の語りが示すもの—

⑥ 寄附講座 2025 年度新設

将来を見据えた社会福祉の実践に寄与すべき教育研究について大学への寄附講座を通じて実践していく。

明治学院大学社会学部と公益財団法人愛恵福祉支援財団は、社会福祉教育の支援(寄附講座)に関する協定を締結し、明治学院大学内で締結式を行った。

協定の目的

社会福祉教育の充実化および社会福祉に携わる人材育成を図り、また国際的な社会福祉の教育・研究の推進を図ることで、教育・研究機関として社会福祉の増進および社会課題の解決に寄与することを目的とする。

今後の社会福祉学科の取り組み

1. 明治学院大学は国際福祉、多文化共生、社会的なマイノリティの権利保障を柱とする福祉教育プログラムを拡充し、またフィールドワーク、スタディツアー等による参加型・実践型教育の充実を図る。
2. ケアロボットをはじめ、AI・ITを活用した新しいケアおよびコミュニティ形成に関する福祉教育プログラムを導入する。
3. 前号の教育プログラムで得た知識・経験等を地域や社会に広く還元するため、教育・研究成果の公表を積極的におこない、より多くの人々と議論を深めていく。

現代の課題に共に取り組めるソーシャルワーカー育成に良き成果が挙げられるように期待する。

⑦ 国際支援

事業主体が日本国内にあって、海外において福祉支援活動を行っている団体に支援する。

2. 財団が共催、後援する公募事業

本事業は公益法人、非営利法人や団体が実施しようとする以下の公益事業、社会福祉活動を公募し共催、後援する。

実行計画が財団の定款にある目的、事業に即しており、成果が期待できる事業を支援する。

① 研修（海外、国内）

社会福祉関係施設運営者などを研修者として福祉制度が充実している先進国を訪問し、優れた社会福祉実践を体験的に学習することを目的とする。

② 講座講習、セミナー等の開催

社会福祉の担い手には、常に新しい知識及び技術を学習し社会福祉活動に寄与することが期待されるので、求める知識等の習得の機会がえられるよう企画、開催・実施を支援する。

日本地域福祉施設協議会

全国研修会開催を支援

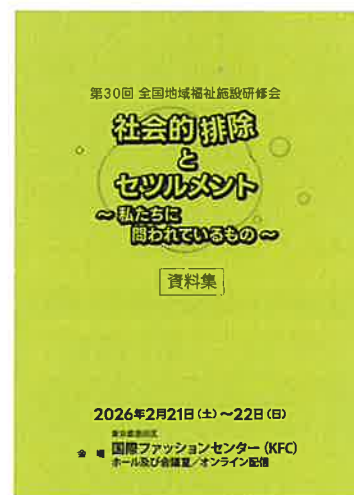
いま、世界中で自分や自分の属する集団の利益を優先し、他者への配慮や共感が軽視される風潮が広がっています。それにより社会的排除や自己責任化が進み、教育、就業、住居の他社会的サービスや制度などで多面的に孤立する人が増えています。

私たちはこの問題をどう考えたらよいのでしょうか。その一つのヒントが19世紀イギリスのセツルメント運動にあります。セツルメントは貧困などの問題を個人の責任とせず社会構造の改善をめざし、支援者が地域に住み込み隣人として共に課題解決に取り組みました。

本協議会の生みの親である阿部志郎氏は、「平和とは人々の人格を尊重すること、一人の人間が幸せになること、平和は与えられるものでなく、勝ち取るもの」と社会的包摂や共生社会の実現にむけた主体的な実践の重要性を語っています。

本研修会は身近なテーマや具体的な取り組みを通じて制度や社会の仕組みの改善だけでなく私たち自身の無意識な偏見や「あたりまえ」を問い直す機会とし、だれもが安心して暮らせるレジリエントな社会の創造をめざします。

全国各地で活動する仲間とつながり学びあい、希望をもって明日へ踏み出す一歩となることを願っています。



開催日：2026年2月21日～22日

参加者及び団体から 200 人

基調講演 奥田知志氏 (NPO 法人抱撲理事長)

分科会研究会テーマ

1. 共生社会とアート
2. 遊び大学とものづくりの町すみだ
3. 緊急下における0歳児と女性
4. マイノリティと多文化共生
5. 地域福祉と災害
6. 知って、つながって、広がろう

ポジティブな体験を語り合おう

未来を担う次世代からの発表



愛恵ヒストリーポケット



【乳幼児健康相談】

まず病気に罹らないために

ミス・ペインが創設を急いだのは乳幼児健康相談事業(ウェル・ベビークリニック・コンサルテーション)であった。

ミス・ペインが考えたことは、病院とか診療所の開設ではなく、何よりもまず病気に罹らないようにすること、そのためにはつねに健康に留意し病気に罹らないための予防措置を講ずる相談所を開くことであった。そのためには専門家である医師の協力を得て、しっかりした衛生思想を普及し、受胎から出産まで適切な指導を得て、さらには如何にして乳幼児を健全に育てるべきか、まで発展させなければならないということであった。

そのための相談相手としてミス・ペインは築地の聖路加病院長トイスラー博士を選んだ。博士は快くミス・ペインを迎え、一日も早く地域の医療組織が確立されることを願い、地域毎に保健センターができることを望んでいると語り、本木地域住民の特に、乳幼児の健康をまもるための乳幼児

健康相談事業が開設されるようにと、小児科担当の斉藤澄を紹介してくれた。同僚仲間のうちに適当な医師を見つけることは容易なことではなかった。一方、トイスラー院長からは急がれる、斉藤は已むなく院長室の扉を叩いた。



診察中の斉藤博士

「トイスラー先生、ミス・ペインのためにわたし自身が参ろうと思います。その自由を与えて頂けませんか。」

斉藤は自らの言をまもって、已むを得ず休止せざるを得なかった期間を除いて、一九六二(昭和37)年、ミス・ペインが引退してアメリカに帰るまで、乳幼児健康相談事業への協力を惜しまなかった。

斉藤は月二回、第一・第三土曜日午後、愛恵に出向いて、乳幼児の診察をかねて健康相談にあたった。相談は一切無料であった。

「愛恵学園物語」より

受賞作品集 頒布

2025年度 第27回 愛恵エッセイ賞
“豊かな福祉社会を創るために”
～失くしたくないもの～

2025年度 第27回
愛恵エッセイ賞の受賞
作品集“豊かな福祉社会を創るために”～失くしたくないもの～を
頒布いたします。

ご希望の方は、財団
事務局までご連絡ください。



■A5版・100頁

愛恵福祉支援財団 案内図

JR駒込駅 東口より徒歩2分
北区中里2-6-1 愛恵ビル5F
電話 03(5961)9711



愛恵福祉支援財団
ホームページ

